

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670300641
法人名	有限会社 広 優
事業所名	グループホーム 織月の郷
所在地 (電話番号)	鹿屋市川西町2483番地 (電 話)0994-42-6667

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成 19 年 9 月 30 日

【情報提供票より】19年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	6 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 16 人

(2)建物概要

建物形態	単 独	新 築 / 改 築
建物構造	木 造 造 り	
	1階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	5 名	要介護2	7 名			
要介護3	3 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	81 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小倉記念病院 おばま病院 渡辺内科 上村歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

共有空間であるダイニングは吹き抜けになっており、天井は高く、自然の光がたっぷり入る作りになっている。さらにダイニングからは芝生の広い庭が見え、明るく清潔感のある雰囲気である。代表者・管理者は利用者の健康状態に配慮しつつ、「今日という日を大切に暮らす」ことを大切にしており、ドライブ・ハイキング・芸術鑑賞などを職員も一緒に楽しんでいる。また、代表者は配置する職員数や職員の勤務体系にできる限り配慮し、利用者の自由で穏やかな生活を支援するよう心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域住民との交流について、幼稚園児による発表会や、近隣の小中高等学校の学生のボランティアの受け入れなどを定期的に行っている。また、夏祭りを開催することによって地域住民がグループホームを訪問することもある。開設以来の地道な働きかけにより、地域住民との交流の機会は少しずつ増えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政担当者・民生委員・利用者家族等とともに、2ヵ月に1回程度開催している。グループホーム側からの近況報告だけでなく、市町村からの最近の介護保険に関する情報提供や、グループホームに対する意見・要望などを話し合う場になっている。さらに、運営推進会議を意義あるものとして継続できるように会議のテーマ等について常々話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から意見や要望を家族が話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。家族から出された意見や要望については、職員・代表者・管理者はそれぞれの立場から意見を聞きながら職員全員で対応を検討し、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議の中で、近隣住民と共に緊急災害時の訓練を行う必要性などが意見として出ており、ホームとしても前向きに検討中である。職員も周辺住民に対して、グループホームへの理解・協力が得られるような声かけを積極的に行っており、次第にその効果が出ている最中である。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームを運営するにあたり、「地域の中でその人らしく生活することを支える」という視点を大切にしていることは十分理解できるものの、運営理念の中に具体的に盛り込んであるとは言いがたい。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられたことを契機に、理念の文言や表現方法について再度検討するとともに、理念の共有について今後も継続して取り組んでほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすい場所に理念を掲示するだけでなく、日常的に理念に立ち返ってケアについて話し合う機会を多々設け、実践にむけた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の学校の運動会を見学したり幼稚園児の発表会をグループホームで行うなど、地域住民との交流を行っている。夏祭りなどを通して近隣の住民がグループホームに立ち寄る機会も次第に増えている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、自己評価を自らのサービスを振り返る大切な機会ととらえている。改善に向けての取り組みも、代表者や管理者だけの意見で行うのではなく、職員全員で意見を出し合って具体的方法を検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、行政担当者・民生委員・利用者家族等に対して状況報告をするとともに、今後の取組みやグループホームへの意見等を話しあう場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは顔なじみの関係であり、気軽に相談や問い合わせ等を行っている。運営推進会議以外にもグループホームを訪問する機会があり、ともに質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がグループホームに訪れる機会が増えるよう声かけを行い、その際に暮らしぶりや健康状態などを直接話すよう努めている。必要に応じて、電話連絡も頻繁に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表者も出席してもらい、家族の率直な意見を聞き、それを運営に反映させられるよう職員全員で取り組んでいる。相談窓口も確保し、意見箱も用意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援の重要性を十分認識しており、極力職員の異動は行っていない。異動をする場合でも、勤務する前から職員がグループホームに顔を出すようにし、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回のミーティング時を利用して、ホーム内の研修を定期的に行っている。外部の研修についても必要に応じて出席し、その内容を回覧して職員で共有している。	○	それぞれの職員のスキルや経験年数に応じて研修計画を立て、職員のスキルアップについて計画的に取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームの見学を行ったり、他のホームの職員研修を受け入れる等、同業者との交流の機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、ホームの雰囲気に少しでも慣れた状態で入居できるよう、入居体験や宿泊体験などを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は外出の機会や季節の行事を利用者とともに楽しんでいる。また、介護する、されるという意識をもたず、ホーム内での日常の喜怒哀楽を大切に生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の馴染みの関係を活かして、1人ひとりの思い・暮らし方の希望などを把握し、それを反映させるケアに努めている。把握が困難な場合は家族から話を聞いたりしながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回開催しているミーティングを利用して、現在の利用者の状態・意向・家族の希望などについて職員全員で話し合い、介護計画の内容を検討している、		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に期間が終了する前に見直しを行うようになっているが、状態に変化がみられる場合は必要に応じて新たな計画を作成している。今後は月に1回程度、見直しの必要性について検討する機会を設ける予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物の支援・買物の代行・理美容院やかかりつけ医への送迎など、本人や家族の状況によって発生するニーズに柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認しながら、隣接する医療機関や以前からのかかりつけ医と連携を取り、必要な時に適切に医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所が対応し得る最大のケアについてその都度話し合いを持ち、重度化に対する支援を行っている。家族にも入居契約時に重度化や終末期に対する方針について説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して、年長者としての敬いを忘れることなく対応するよう努めている。また、入浴や排泄等の介助については、特にプライバシーに配慮したケアを行っている。ファイルの管理等も適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの、職員の都合による時間の管理は行っていない。その日の体調や利用者の希望などを大切にしながら、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の利用者とともに食事の準備や後片付けなどを行っている。食事は地元の食材をふんだんに使って作っており、利用者と職員の大切なコミュニケーションの時間になっている。	○	献立はほとんど職員が中心となって作っているとのことであるが、それぞれの好みや希望を把握し、食事に対する意欲や楽しみを高めていけるような取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日・時間帯などは決めておらず、いつでも入浴できるよう支援している。シャワー浴等も一日に何度でも自由に利用できるよう体制をととのえている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生きがい、大切にしているものなどを把握し、それぞれの得意分野で力を発揮することができるような場面作りを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にドライブや散歩に出かける機会を設けている。近隣で行われる運動会や演奏会などに出席する機会もあり、地域住民の協力と理解を得ながら、外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、外出したい様子が見える利用者には一緒に散歩をしてみわるなど、行動を制限しないケアに努めている。またそのようなケアを実際に行うことができるよう職員配置に十分配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っており、夜間を想定した訓練も行っている。今後は地域住民にも協力をお願いし、緊急時の備えを充実させる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養の専門的な観点からメニューをチェックしている。食事及び水分摂取量は概ね把握し、必要に応じて記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に明るく開放的で、生活感のある居心地のよい空間になっている。利用者はダイニングや畳のコーナー、ソファなどで自由にゆったりと過ごしており、仲間同士の会話も弾んでいる。季節の装飾等も行い、生活感・季節感のある空間作りができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるものの、今まで使っていた家財道具を自由に持ち込んでもらい、それぞれの居室作りに取り組んでいる。家族からの協力を得ながら大切にしていた写真等や昔から使っていたものを居室に置き、本人が安心して過ごせるような支援も行っている。		